

卑弥呼の鏡と墓

九州歴史資料館長・海の道むなかた館長
西谷 正

- I はじめに
- II 倭人伝に見える「銅鏡百枚」
 - (1) 魏の鏡
 - (2) 櫛井大塚山古墳出土の鏡
 - (3) 三角縁神獸鏡の問題
- III 倭人伝に見える「大作家徑百餘歩」
 - (1) 墳丘墓
 - (2) 前方後円墳
 - (3) 大和古墳群と箸墓古墳
- IV おわりに



景初

二年六月倭女王遣大夫難升米等詣郡求詣天子朝獻太守劉夏遣吏將送詣京都其年十二月詔書報倭女王曰制詔親魏倭王卑彌呼帶方太守劉夏遣使送汝大夫難升米次使都市牛利奉汝所獻男生口四人女生口六人班布二匹二丈以到汝所在踰遠乃遣使貢獻是汝之忠孝我甚哀汝今以汝爲親魏倭王假金印紫綬裝封付帶方太守假授汝其綏撫種人勉爲孝順汝來使難升米牛利涉遠道路勤勞今以難升米爲率善中郎將牛利爲率善校尉假銀印青綬引見勞賜遣還今以絳地交龍錦五匹

絳地縹粟罽十張蒨絳五匹紺青五匹答汝所獻貢直又特賜汝紺地句文錦三匹細班華罽五張白絹五匹金八兩五尺刀二口銅鏡百枚眞珠鉛丹各五十斤皆裝封付難升米牛利還到錄受悉可以示汝國中使知國家哀汝故鄭重賜汝好物也

景初二年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣わし郡に詣り、天子に詣りて朝獻せんことを求む。太守劉夏、吏將を遣わし、送りて京都に詣る。その年の十二月、詔書して、倭の女王に報じて曰く、「親魏倭王卑彌呼に制詔す。帶方太守劉夏、使を遣わし、汝が大夫難升米、次使都市牛利を送り、汝が獻する所の、男生口四人、女生口六人、班布二匹二丈を奉じて以て到る。汝が在る所、踰遠なり。乃ち使を遣わして貢獻す。是、汝の忠孝、我甚だ汝を哀れむ。今、汝を以て、親魏倭王となし、金印紫綬を假し、裝封して帶方の太守に付して假授せしむ。汝それ種人を綏撫し、勉めて孝順をなせ。汝が來使難升米、牛利、遠きを涉り、道路勤勞す。今、難升米を以て、率善中郎將となし、牛利を率善校尉となし、銀印青綬を假し、引見して勞賜遣還す。今、絳地交龍錦五匹、絳地縹粟罽十張、蒨絳五匹、紺青五匹を以て、汝が獻する所の貢直に答う。又、特に汝に紺地句文錦三匹、細班華罽五張、白絹五匹、金八兩、五尺刀二口、銅鏡百枚、眞珠、鉛丹各五十斤を賜わり、皆裝封して難升米、牛利に付す。還り到らば錄受し、悉く以て汝が國中の人に示し、國家の汝を哀れむが故に、鄭重に汝に好物を賜うことを知らしむべし」と。

中国から東へ

地域	時代	授けた品物	文献
前漢→大余	120(漢安帝永寧元年)年	印綬・金綵	『後漢書』東夷列伝
前漢→高句麗	武帝在位年間	鼓吹伎(太鼓・笛・芸人)	『後漢書』東夷列伝
後漢→奴国	57(漢光武帝建武中元二)年	印綬(おそらく金印)	『後漢書』東夷列伝
魏→倭国	239(魏明帝景初三)年	銀印青綬・絳地交龍錦五匹・絳地縹粟罽十張・蒨絳五匹・紺青五匹・紺地句文錦三匹・細班華罽五張・白絹五匹・金八兩・五尺刀二口・銅鏡百枚・眞珠五十斤・鉛丹五十斤	『三国志』魏書東夷伝
魏→倭国	240(魏齊王芳正始元年)年	金帛・刀・鏡・采物	『三国志』魏書東夷伝
魏→倭国	243(魏齊王芳正始四年)年	印綬	『三国志』魏書東夷伝
魏→倭国	245(魏齊王芳正始六年)年	黄幢(黄色のはた)	『三国志』魏書東夷伝

180頃 倭国大乱

卑弥呼の共立によって大乱終息。

後漢建安中(196-220) 公孫康、楽浪郡の南に帯方郡を分立。

220 後漢の滅亡、魏の建国。

237 公孫淵、自立して燕王を称す。

238 魏、遼東の公孫淵を滅ぼし、楽浪・帯方郡を取る。

239(景初3年) 卑弥呼、魏に朝貢し、銅鏡百枚を賜わる。

240(正始元年) 帯方郡太守、使いを卑弥呼に遣わし、詔とともに銅鏡などを賜う

243 倭王、また魏に朝貢。

245 魏帝、詔して倭の難升米に黄糧を賜う。

247 卑弥呼、狗奴国との交戦を帯方郡に知らせる。

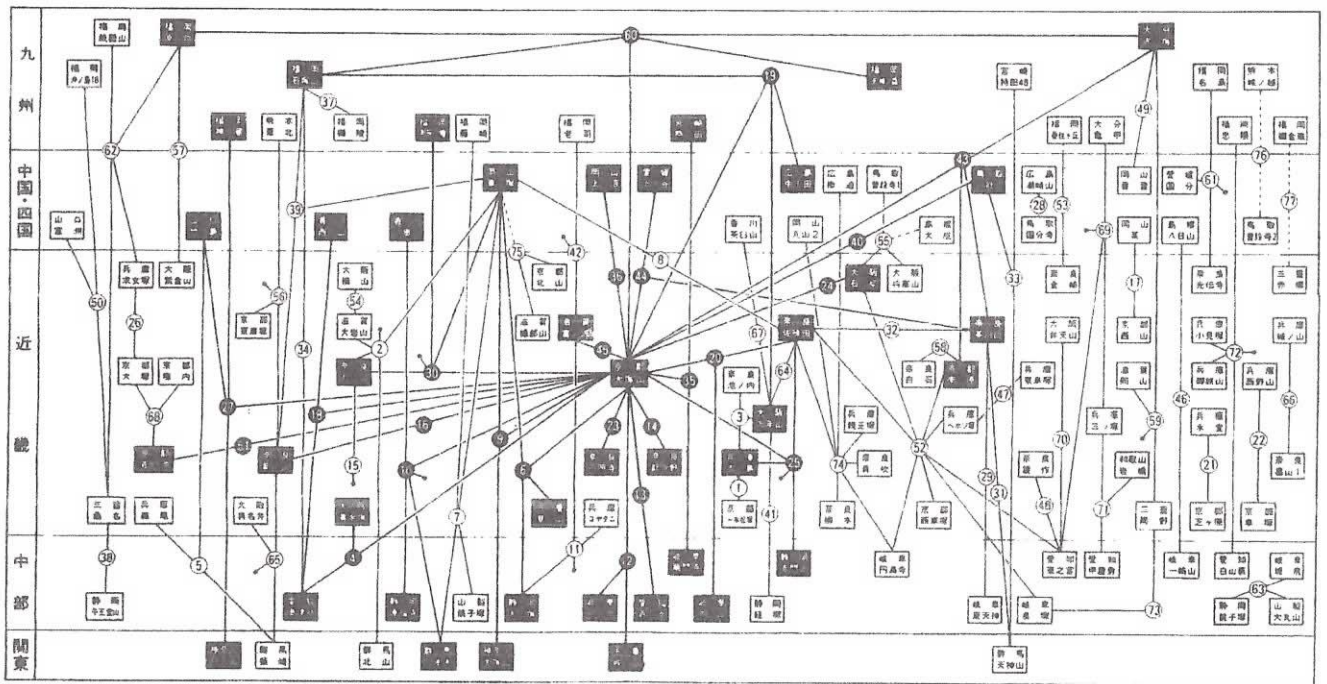
248頃 卑弥呼死す。男王が立つが、おさまらず、宗女の台与を女王として国ついに定まる。台与、魏に朝貢。

265 魏が滅び、西晋の建国。

266 倭、西晋に朝貢。



3世紀の東アジア



中国製三角縁神獸鏡の同范鏡分有関係 (小林行雄1987年7月12日作成)

■三角縁神獸鏡

(さんかくぶち(さんかく)しんじゅう(しんじゅう)めい)

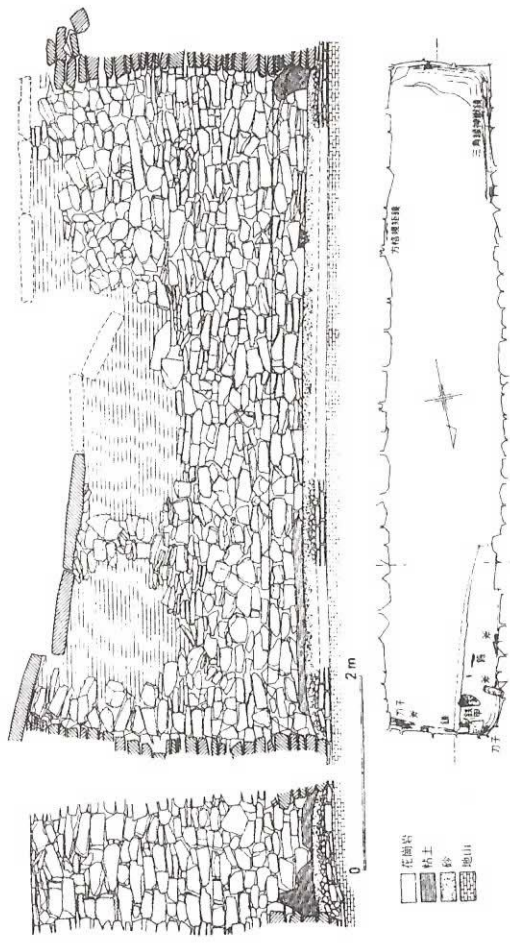
背面の周囲がお盆の縁のように盛り上がり、その断面が三角形に見えることから三角縁という。口語的には「さんかくぶち」文語的には「さんかくえん」となる。

背面に神像と獸形の文様を配している。神獸の数により、二神二獸鏡、六神四獸鏡などという。博物館などでは普通、これらの文様を見せるため背面を向けて展示している。緑青色の表面も本来は新品の10円玉のように輝き、鏡としての機能を果たしていた。手鏡として実用された一般の中国鏡とは違い、直径20センチ以上と大型なことも祭祀用具としての三角縁神獸鏡の特色といえる。

背面に「景初三年」など魏の年号を銘文に持つ紀年銘鏡があり、卑弥呼への下賜鏡だともいわれるが、国内の発見は500面を超える一方、中国での出土例がなく議論が続いている。1998年1月、奈良県天理市の黒塚古墳から33面の三角縁神獸鏡と1面の画文帯神獸鏡が出土したが、棺の頭部にあつたのは画文帯神獸鏡で、33面の三角縁神獸鏡は棺の周りに鏡面を内側にして立てかけられていた。こうしたことから、被葬者の愛用品というよりは魔よけの「葬具」としての意味が注目されている。中国では貴人の死に際し、一定の葬具が官庫から支給されていた。



榑井大塚山古墳測量図(1988年3月作成 縮尺1/1000)



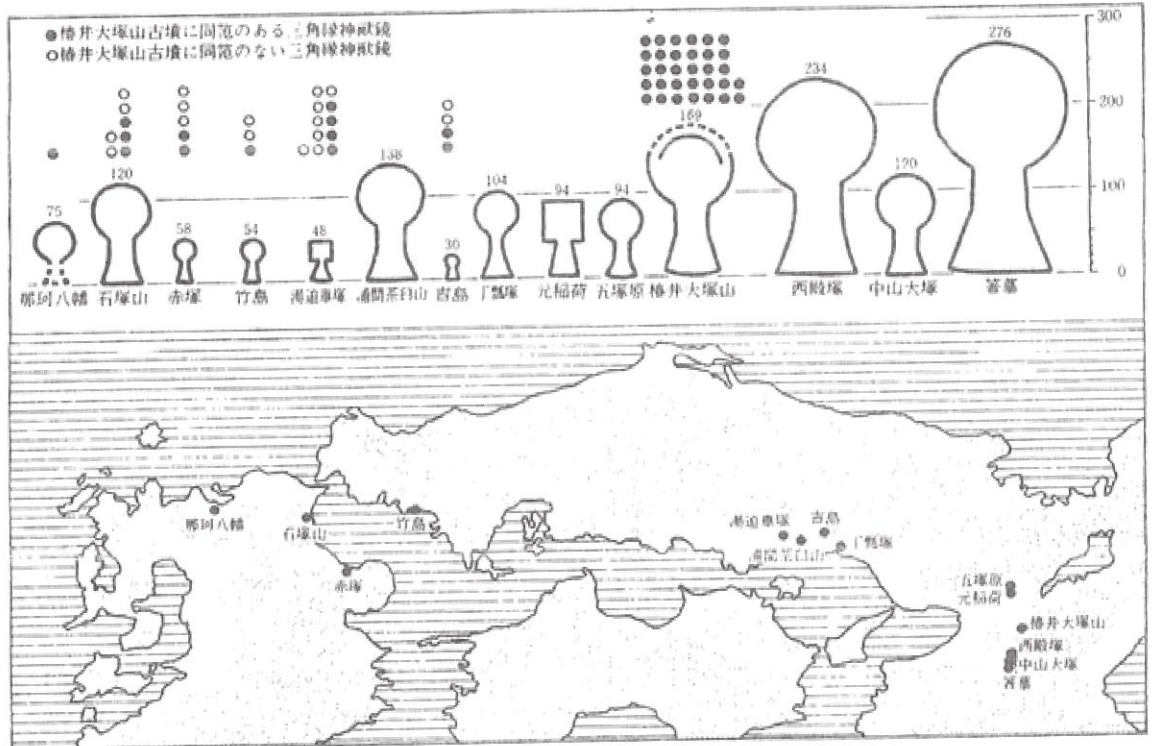
榑井大塚山古墳竪穴式石室実測図



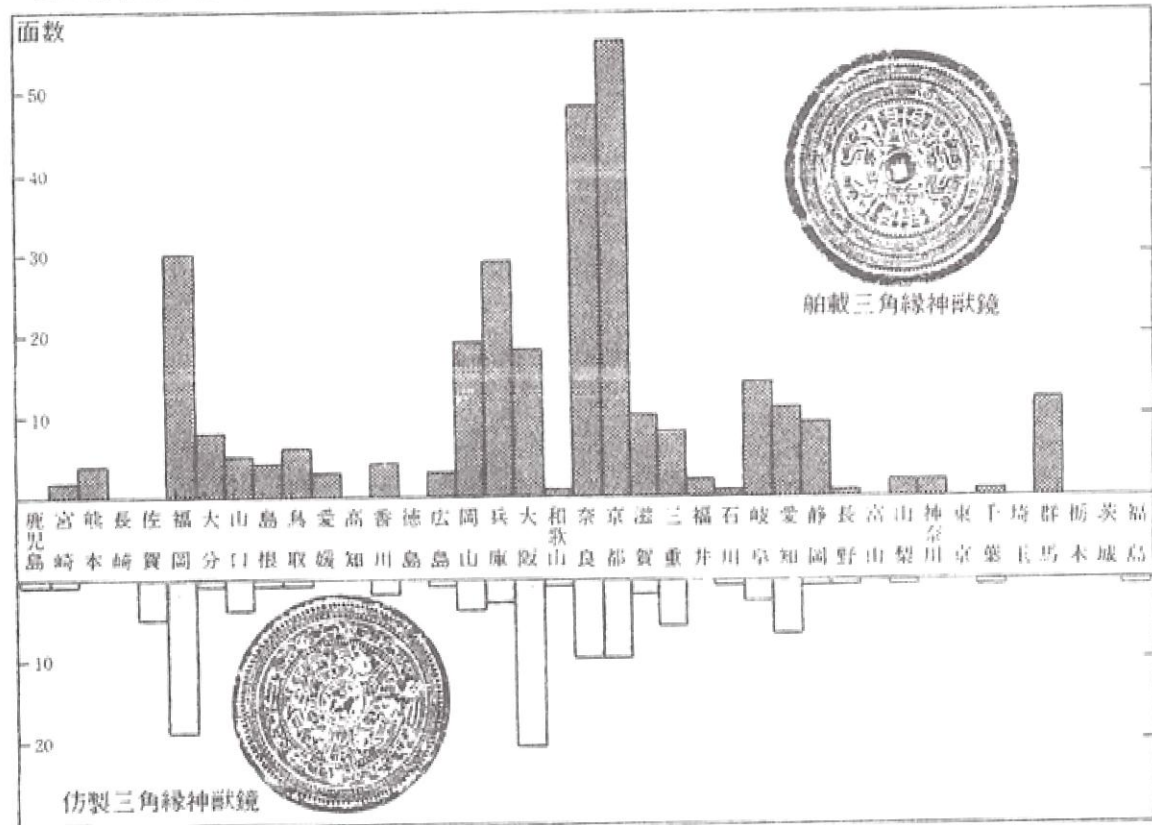
榑井大塚山古墳と箸墓古墳(赤)の比較



前期古墳出土の画文帯神獸鏡



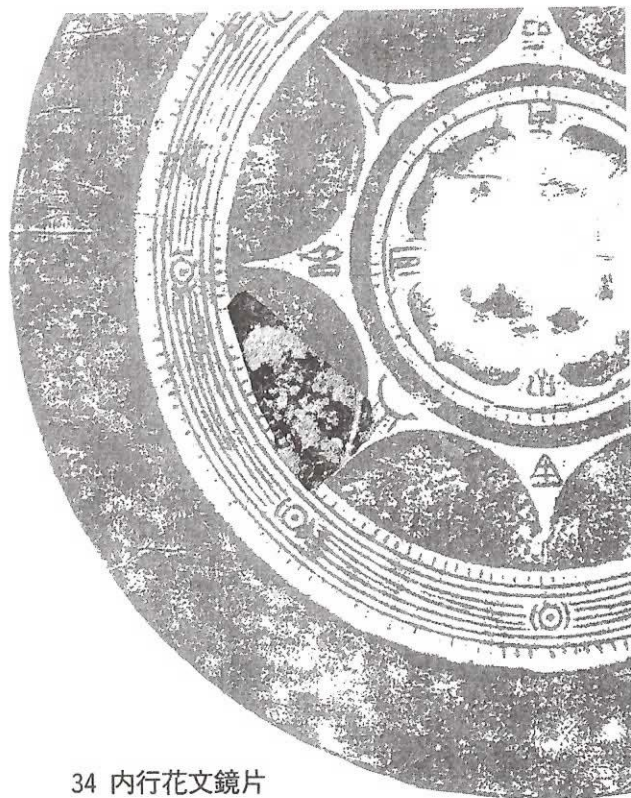
古墳時代初頭の前方後円(方)墳



三角縁神獸鏡の府県別出土数

伝世鏡と画文帯神獸鏡

三角縁神獸鏡のほかに4面の中国鏡が出土した。内行花文鏡の1面は破損しているが、径27.8cmに復原される大型の鏡である。1世紀中ごろに作られ、200年あまり宝器として伝世したため、文様が著しく摩滅している。小さな破片だが内行花文鏡がもう1面出土している。方格規矩四神鏡は、鈕座に方位を示す十二支銘をいれるが、四神のなかで龍が欠落し、TLV字形のLが反転している。このような古くに伝来した後漢時代の鏡に対して、画文帯神獸鏡は3世紀はじめに華南地方で作られ、三角縁神獸鏡の直前に輸入されたものであろう。



34 内行花文鏡片

背景は『小校経閣金文』拓本



内行花文鏡 27.8 cm

作同竟甚大工 上有山口不知老 服者長生 買主壽羊



方格規矩四神鏡

18.4 cm

作明如光服者侯王九子



画文帶神獸鏡

13.8 cm

同範鏡 一鏡の兄弟たち

ひとつの鋳型や原型から鋳造された鏡は互いに同じ文様となる。ここにあげた3面の三角縁神獸鏡は、細かい部分までまったく同じになっている。これが同じ型(範)から作られた鏡、^{どうはんきょう}同範鏡である。これらは、同じ型を母にもった、いわば鏡の兄弟である。三角縁神獸鏡の大きな特徴は、この同範鏡が非常に多く、全国の古墳に同範の鏡どうしが分かれて散らばっていることである。各地の古墳に離ればなれになった同範の兄弟も、もとは同じ所にあつたに違いない。

樺井大塚山古墳は、全国の古墳のなかでもっとも多く三角縁神獸鏡が出土し、多くの古墳と同範鏡を分有している。このことから、樺井大塚山古墳の主が三角縁神獸鏡の大親元の一人であり、彼によって三角縁神獸鏡が全国に配布されたのではないかという学説が生まれた。離ればなれになった同範鏡の兄弟がどのような理由で、どのような道をたどって各地の古墳に納められたか、そこに古墳時代の成立を考える鍵があると多くの研究者は考えている。





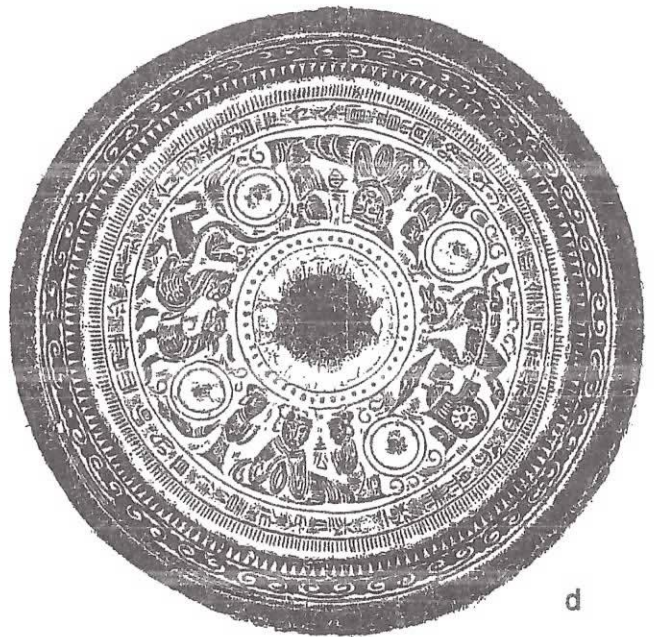
a



b



c



d

日本及び中国出土の画像鏡

(a. 新山古墳出土 b. 佐味田宝塚古墳出土
c, d. 洛陽出土)

尚方作竟佳且好 明而日月世少有
刻冶分守悉皆有 長保二親宜孫子
富至三公利古市 傳告后世樂無已

b

蔡氏作竟佳且好 明而(日)月世少有
刻冶分守悉皆左 令人富貴 宜孫子
壽而金石不知老兮 (傳告后世) 樂舞□

c, d

西崎 敬, 1987 『中国の考古学』
隋唐篇, 同朋舎出版



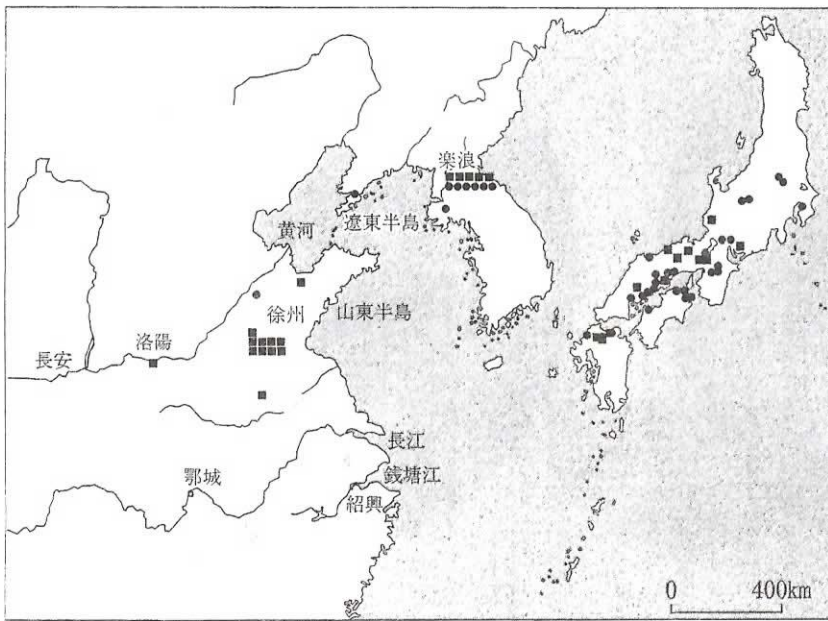


図1 華北-東部系
 (■飛禽文鏡 ●「上方作」系獸帶鏡)
 2世紀後半～3世紀はじめ

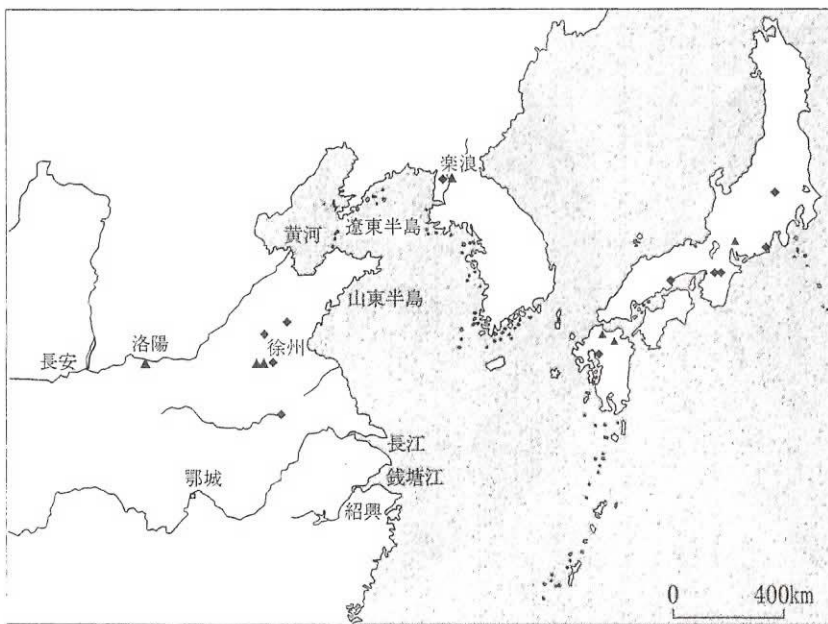


図2 華北-東部系
 (▲斜縁同向式神獸鏡 ◆「袁氏作」系画像鏡)
 2世紀末～3世紀前半?

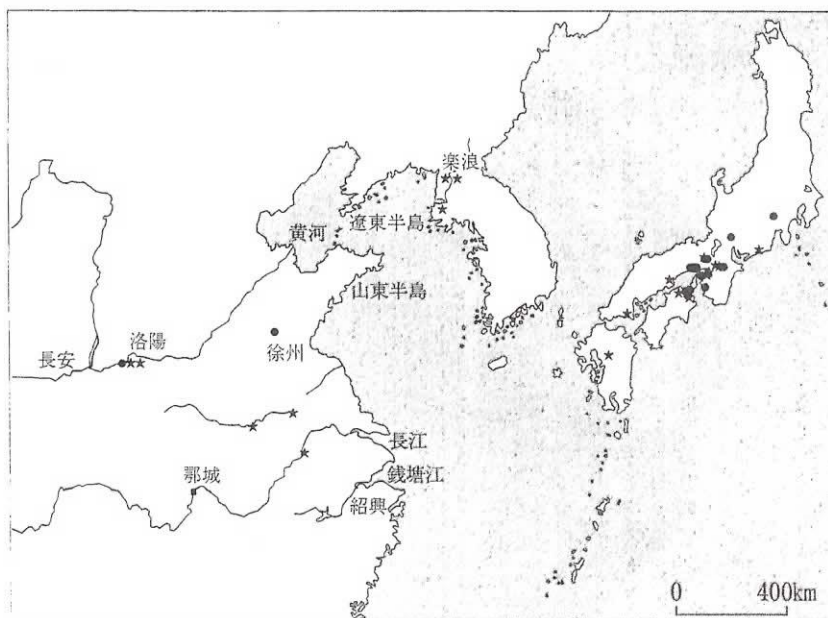
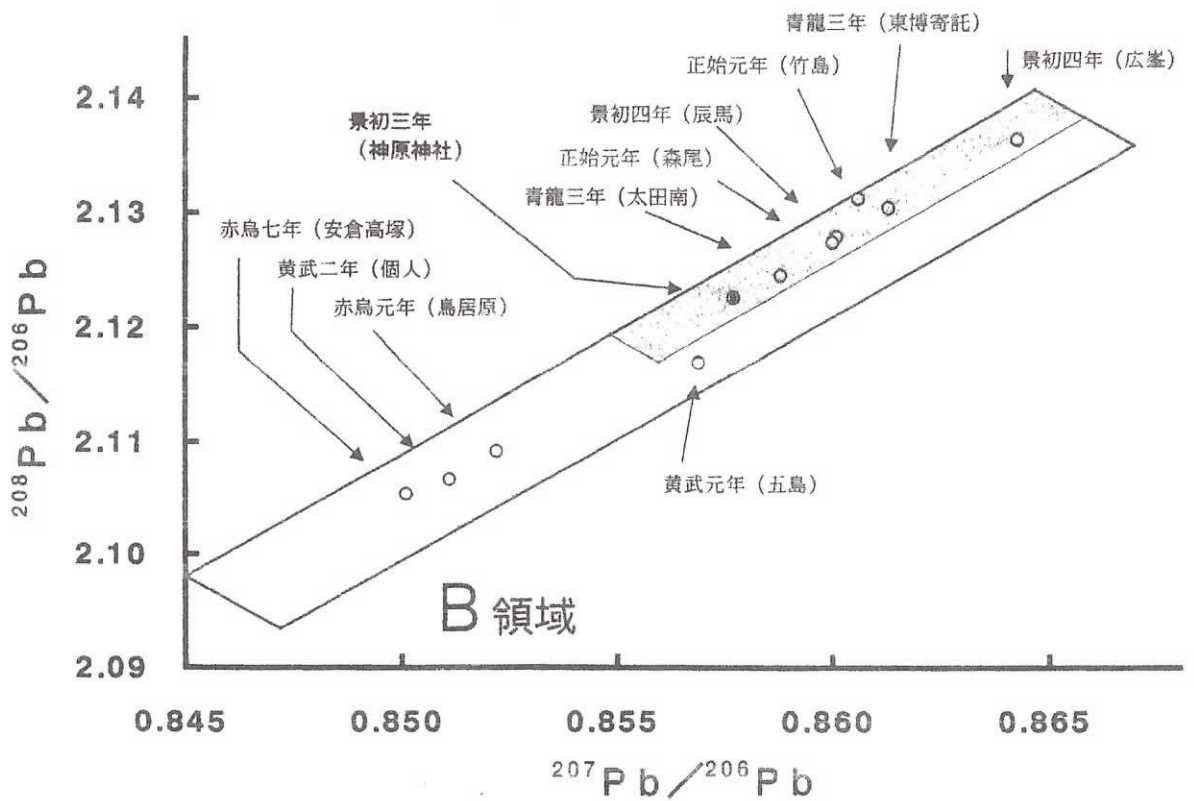
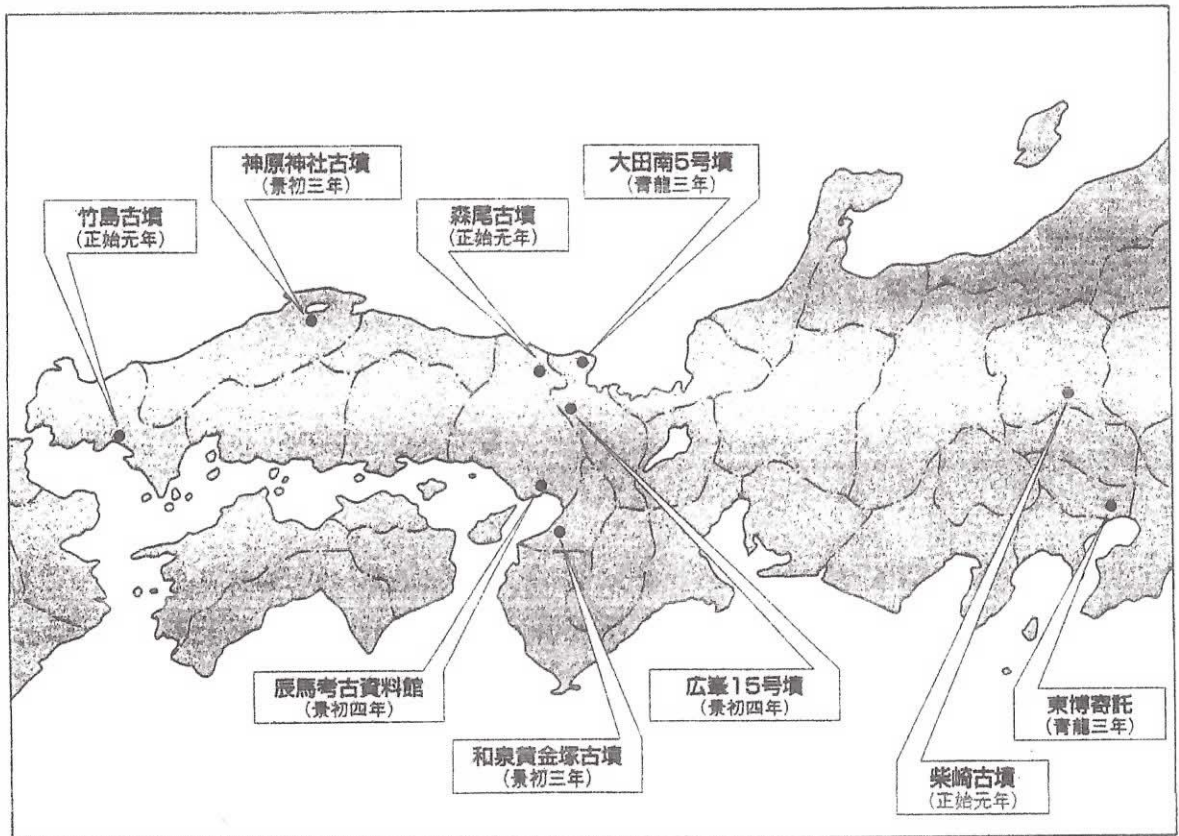


図3 華北-東部系
 (●画文帯環状乳神獸鏡—上野ⅡC式 ★画文帯同向式神獸鏡)
 2世紀後半～3世紀はじめ

森下草司, 2007「銅鏡生産の變容と交流」『考古学研究』第54巻第2号, 考古学研究会



魏と呉の年号を持つ紀年鏡の鉛同位体比



魏の年号鏡の出土地

島根県加茂町教育委員会, 2002 『神原神社古墳』 加茂町教育委員会



景初四年銘盤龍鏡

径17.0 広峯15号墳



景初四年銘文拡大写真(外側)

景初四年銘文拓影(内側)

と釈文

銘文読み下し

- ①「景初四年五月丙午の日に、陳氏がこの鏡をつくった。吏人(男性)が之を用いれば、位が三公(総理大臣クラスの人臣をさわめた位)に至るであろう。母人(女性)が之を用いれば、いい子いい孫にめぐまれ、子孫が繁栄するであろう。この鏡をもっていれば金石のようにいつまでも長寿を保つであろう。」小南一郎氏(京都大学人文科学研究所助教授)1986年10月31日NHKテレビから
- ②「景初四年の五月の丙午の日に(私)陳氏は鏡をつくる。役人である人が之を有すれば官位は(高くなって)三公(大尉、司徒、司空)に至る。母親である人が有すれば息子(の健康)を保たれ、孫(の人数)が多くなり、(自分の)命も金石の如く(永久に亡くならない)王仲殊氏(中国社会科学院考古学研究所長)1986年10月25日於奈良国立文化財研究所



景初四年銘盤龍鏡(辰馬考古資料館蔵)

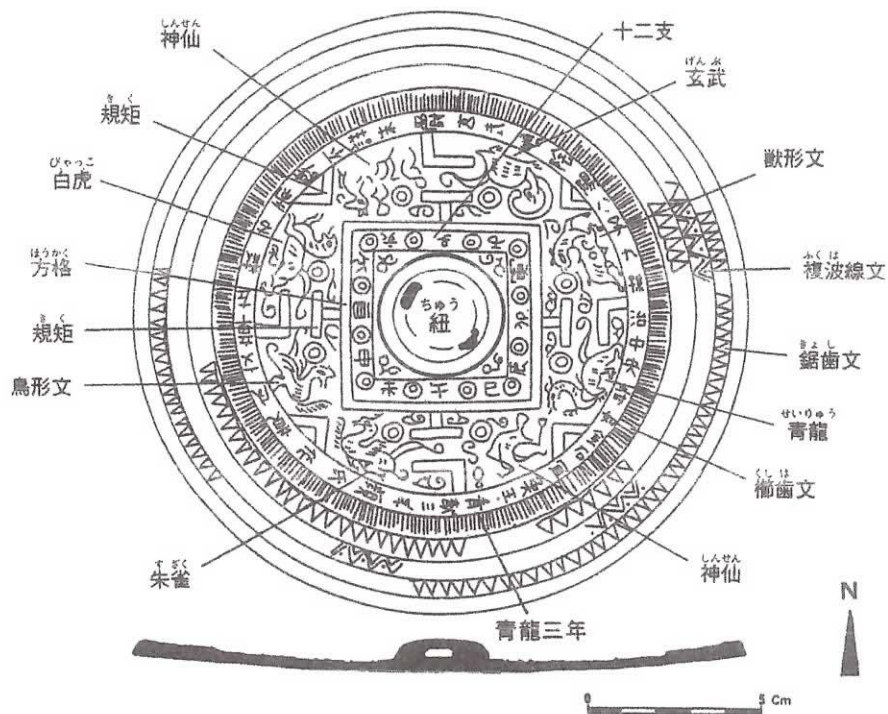
京都府立山城郷土資料館, 1987

『鏡と古墳—景初四年鏡と芝ヶ原古墳—』



弥栄町教育委員会・峰山町教育委員会提供
 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター撮影

原田三壽, 1994 「正L字文を持つ
 規矩鏡について」『京都府埋蔵文
 化財情報』第52号



青龍三年銘方格規矩四神鏡

(『やさかの教育』第56号から転載・加筆)

王仲殊, 1994 「日本出土の青龍三年銘方格規矩鏡について」『京都府埋蔵文化財情報』第54号

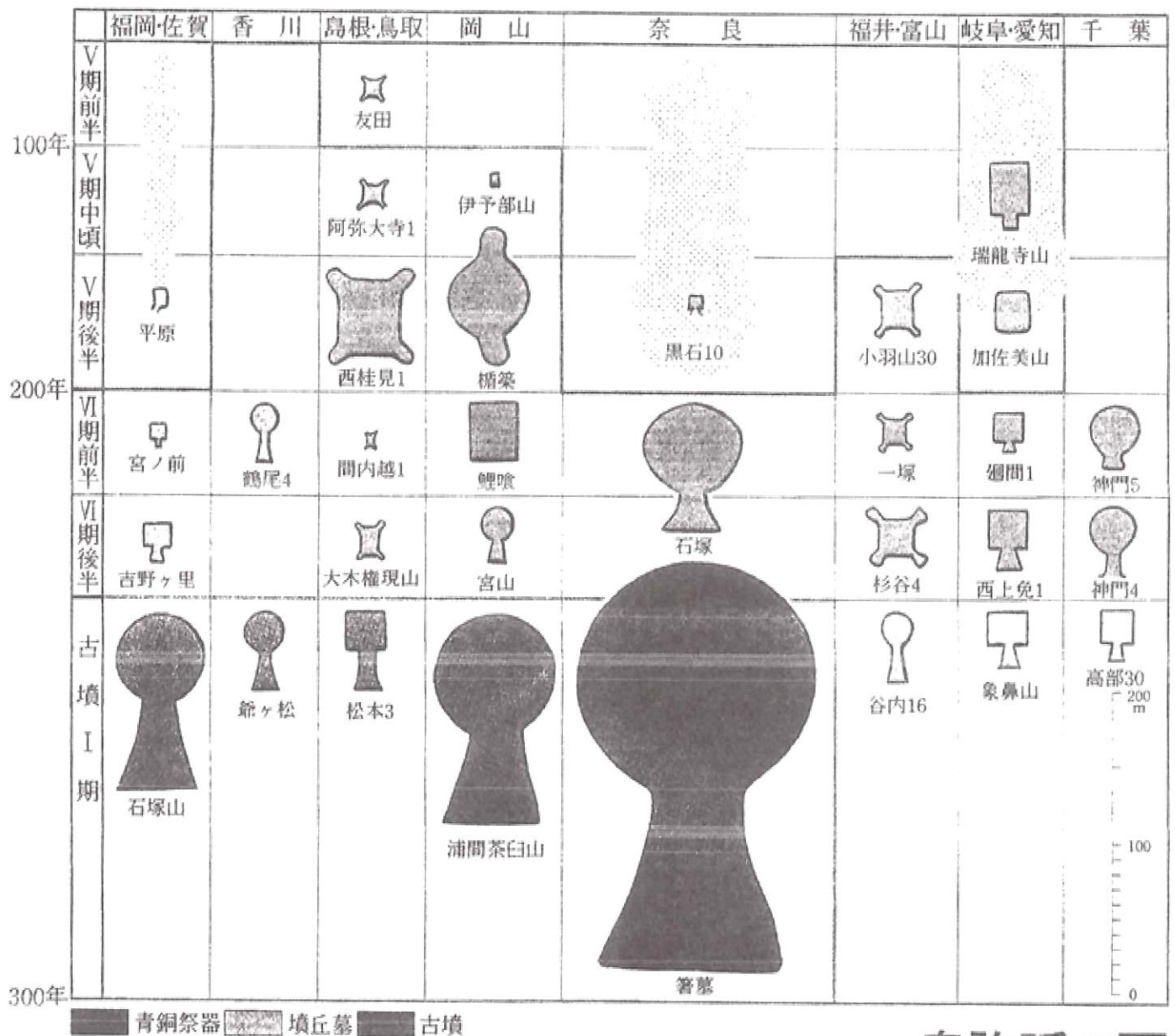
卑彌

呼以死大作冢徑百餘步
徇葬者奴婢百餘人更立
男王國中不服更相誅殺
當時殺千餘人復立卑彌
呼宗女壹與年十三爲王
國中遂定政等以檄告喻
壹與

卑彌呼以て死す。大いなる冢を作る。徑百
余歩。徇葬者奴婢百余人。更に男王を立つ
るも國中服せず。更に相誅殺す。時に当り
て千余人を殺す。復た卑彌呼の宗女壹與、年
十三なるを立てて王となし、國中遂に定ま
る。政等檄を以て壹與に告諭す。

卑彌呼の後継選びを見届けた郡使

卑彌呼が死んだので大きな塚を作った。直径が百余歩
(約百四十四メートル余。一步〓百四十四・七二センチ)。
葬儀に従う者は奴婢百余人。再度、男王を立てたが各国は
承服せず、互いに殺戮が行われ千余人が殺された。そこで
また、卑彌呼の一族の壹與と呼ぶ十三歳の女子を立てて王
にして國中がようやく安定した。張政らが檄文で壹與に祝
意を告げた。



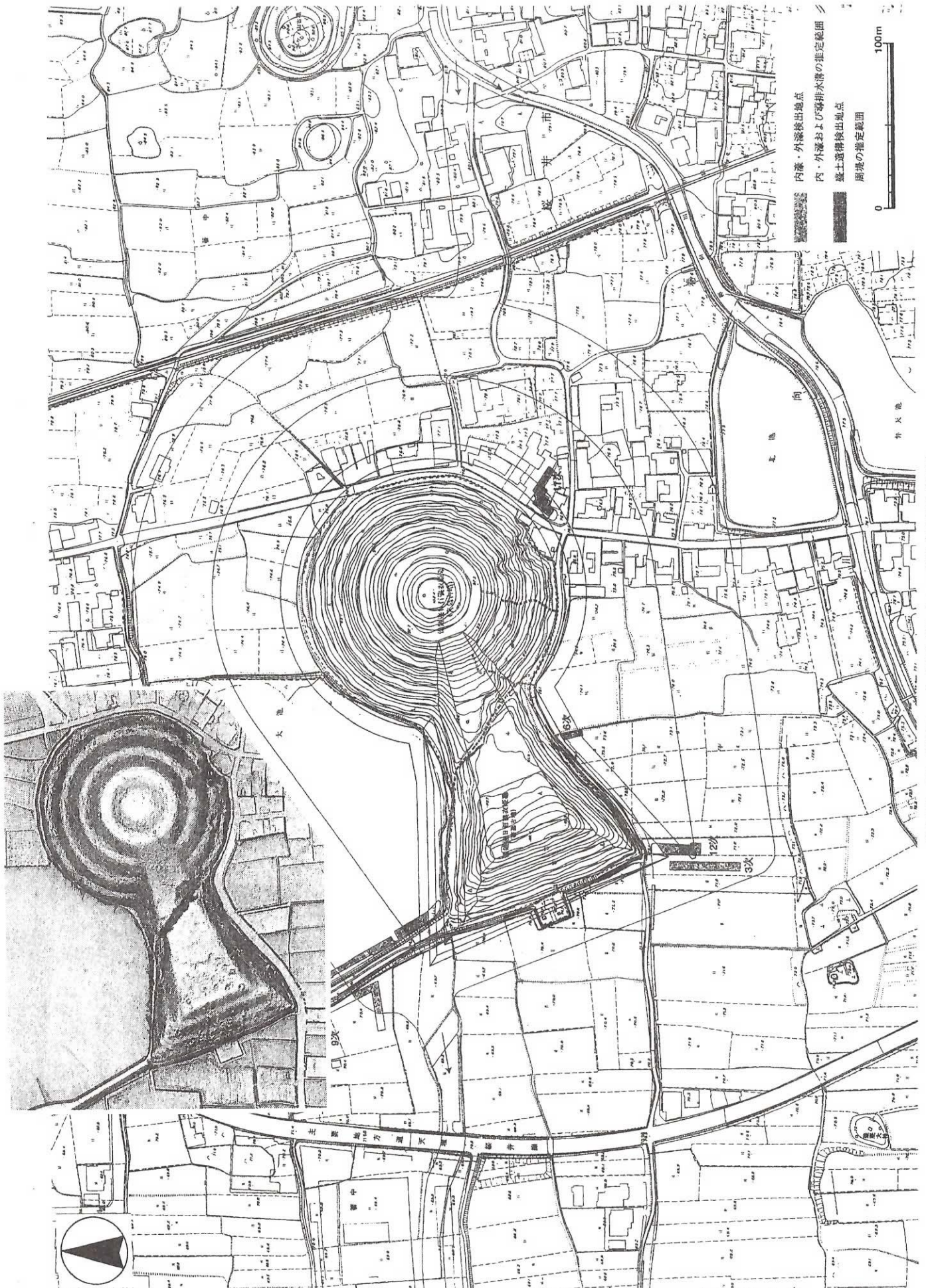
卑弥呼の死

卑弥呼が倭王になったのは一八〇年代、亡くなったのは二四八年ごろという。卑弥呼はおそらく八十何歳まで生きた長寿の人で、卑弥呼一男弟の政權は超長期にわたって安定していた。彼女の在世期間は、考古学の時期区分ではおおよそ弥生V期の末からVI期いっぱいに対応すると考えている。この時期の日本列島では、それ以前からの地方ごとに独自の墓制がつづいている。卑弥呼の共立による倭国の統一は、そのようなゆるやかなものであった。

魏志倭人伝の記事では、卑弥呼は、狗奴国の王と以前から仲が悪く、彼女の晩年に、狗奴国と戦っている。狗奴国の位置については、三遠式の銅鐸、前方後方形の墳丘をもった墓、独特の口縁部をもつ甕形の上器の分布と広がりから、濃尾平野をあてる説が最近では有力になっている。この地方から東で古墳の出現が一時期遅れるのは、倭国と戦っていたという事情があったからかもしれない。この時期の大きな墳丘墓は、九州ではまだわかっていない。

弥生の墓から古墳へ

西谷 大, 1996 「生口と銅鏡 贈り物と授けり物の特殊性」 『倭国乱る』 朝日新聞社



箸墓古墳に関する調査トレンチの状況と築造プランの想定 (2002年3月現在)

奈良県土橋原考古学研究所, 2002 『箸墓古墳周辺の調査』 『奈良県文化財調査報告書』 第89集



有力者が死ぬと、人の手で丘を築いて墓とする時代がくる。古墳の出現である。昼は人が、夜は神が造った、と崇神紀に記す箸墓古墳を、卑弥呼の墓に見たてる説もある。魏志倭人伝には、卑弥呼が死

国立歴史民俗博物館, 1996 『倭国乱る』朝日新聞社

ぬと盛大に墓を造り、その直径は百余歩、つまりおよそ150mだったと書いている。箸墓古墳の後円部の直径は156mとその数値に対応する。しかし、卑弥呼のあとを継いだ台与の墓とする説もある

丹後地域とその周辺の古墳の編年と暦年代 (杉原試案)

寺沢案		都出案		・暦年代	丹後編年		丹 後						
時代	時期	近畿編年	時代	時期	細分様式	・実年代のめやす	野々口案	肥後案	熊野郡	丹波郡・竹野郡	与謝郡	加佐郡	
弥生時代	中期	第IV様式	弥後	古	第5	50	古I新	1		左坂G17号, 18号 △三坂神社3号, 8号 △坂野丘 △左坂26号, G15号		シゲツ 水無月山	
													後
	生後	V1	生	中	様	100	古II新	3		大山3号 大山周辺16号	△犬石西B8号, 14号 △玉峠 △大風呂南1号 △大風呂南2号		
													期
	時代	第VI様式	代	終	庄	古	200	古IV	5	△浅後谷南・赤坂今井 △金谷1号・帯城I 大田南4号下層 △帯城II 有明8号	△西谷1号 △西谷2号 △白米山北		
													期
	前	式	古	前	布	古	250	古I新	6	△蔵谷 △大田南5号 △大田南4号 △大田南2号	△内和田5号 □内和田4号 □霧ヶ鼻1号 ○波路	三庄大夫 志高	
													期
	古	布	古	墳	留	中	300	古II留	布	○霧ヶ鼻3号 谷垣 ○加悦丸山 ●白米山 ○愛宕山3号○岩滝丸山 ●姪子山1号	○北谷1号 ○北谷5号 ●網野銚子山 ●神明山 ○大田南6号 ○カジャ ○湧田山1号	○作山1号●法王寺 □作山5号 ○作山2号 □作山3号 ○温江大塚	○切山
時	留	I1	期	中	式	350	古III	式	○北谷1号 ○北谷5号 □権現山 □堤谷B-10 ●茶白山	○北谷1号 ○北谷5号 ●網野銚子山 ●神明山 ○大田南6号 ○カジャ ○湧田山1号	○作山1号●法王寺 □作山5号 ○作山2号 □作山3号 ○温江大塚		
													代
時代	式	II	代	新	式	400	古IV		○北谷1号 ○北谷5号 □権現山 □堤谷B-10 ●茶白山	○北谷1号 ○北谷5号 ●網野銚子山 ●神明山 ○大田南6号 ○カジャ ○湧田山1号	○作山1号●法王寺 □作山5号 ○作山2号 □作山3号 ○温江大塚	○愛宕山9号	
													期

①丹後・但馬・丹波の弥生後期欄の△印は刀剣出土 ②○; 円墳 □; 方墳 ●前方後円墳 ■; 前方後方墳
杉原和彦, 2001「丹後地域の古墳の出現と展開」『北近畿の考古学』西丹考古学研究会
但馬考古学研究会

(参 考)						備 考
但馬	丹波	出雲, 因伯	摂津, 丹波	山城	大 和	
東山 門谷 △半坂		洞ノ原 阿弥大寺				14~40 貨泉鑄造 25 後漢建国 57 倭奴国王が後漢から印綬
△土屋ヶ鼻 △妙楽寺4A-2 △立石 103-11	宮内1号 西柱見 西谷3号		(略)		(略)	107 倭国王帥升が遣使 この頃 7~80年間男王が治める 147~184 倭国乱れる 卑弥呼共立
△久田山H3号 本井 △岩谷1号 鎌田若宮3号	仲仙寺 10号 西谷9号		矢谷 萩原1号		●石塚 ●ホケノ山 ●東田大塚 ●矢塚	220 魏建国 この頃使訳通ずる所三十国 235 青龍三年銘鏡 239~243 卑弥呼が魏に遣使 239 景初三年銘鏡 248 頃卑弥呼死す
大宮3号△内場山 黒田, 成山2号 □寺ノ段2号 □森尾 ○谷尾谷1号	桂見2号 □古城山2号 □神原神社 □大成		■権現山 51 □安満宮山 ■西求女塚 ■湯迫車塚 ●浦間茶白山	芝ヶ原 ■元稻荷 ●椿井大塚山	●岩墓 ●中山大塚 ●西殿塚 ●桜井茶白山	老与共立 265 西晋建国 266 老与が西晋に遣使
□宝殿山4号 □岩谷2号 ○城ノ山	■普段寺1号 ■松本1号 □造山3 ●国分寺	●曹野山	●五塚原 ●寺戸大塚 ■長法寺南原 ●安土瓢箪山●紫金山	●黒塚 ●東殿塚 ■下池山 ●メシリ山 ●行燈山		313 秦浪郡滅ぶ
●丸山1号 ●広峯 15号 □入佐山3号 □ヌクモ2号 □深谷1号 ○小見塚 ●垣内 ●入佐山 ○小山3号	●馬ノ山4号 ●六部山3号	●將軍山 ●和泉黄金塚 ●五色塚●摩湯山 ●仲ツ山	●平尾城山	●波谷向山■新山 ●五社神●宝塚 ●宝来山 ●磯山 ●石塚山		391 倭、朝鮮半島へ出兵
●庵の谷2号 ○北浦 18号	●大寺			●市庭 ●コナベ		431 倭王讃が東晋に遣使